

Title	常微分方程式ノ解ノ單獨條件ニツイテ
Author(s)	佐藤, 徳意
Citation	全国紙上数学談話会. 110 p.1-p.5
Issue Date	1936-11-02
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74423">https://doi.org/10.18910/74423</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 498. 常微分方程式ノ解ノ單獨條件ニツイテ

佐藤 徳意 (札幌)

常微分方程式

$$(1) \quad \frac{dy}{dx} = f(x, y)$$

ノ解ノ單獨性ガ其ノ初期條件 = *essential* = 關係スル場合ノアルコトガ方程式

$$\frac{dy}{dx} = \sqrt{|y|} + a$$

カラ福原先生ニ見出サレタ (第40号)。又ソノマウナ場合ノ單獨條件モ共ニ與ヘラレタ (第43, 48号)。

コノデハソノ外ニ二、三ノ條件ヲ出シテ見タイト思ヒマス。

函数  $f(x, y)$ ,  $G(x, y)$  ハ  $0 \leq x < a$ ,  $|y| < b$  デ有界連続デ,  $G(x, y)$  ハ高々可附番ケノ氣ヲ除イテハ正デアルトスルヲ証明ハ略シマスガ次ノ定理ヲ得マス。

定理1.

“(L)  $\int_{-b}^b D_{\pm} G(x, y) dy$  ガ存在シテ,

$$G(x, y) f(x, y_1) \leq G(x, y_2) f(x, y_2)$$

$$(y_1 > y_2)$$

$$D_{\pm} G(x, y) \leq K G(x, y) \quad (K \text{ ハ負デナイ常数})$$

デアルトラベ, 微分方程式 (1) ノ初期條件

$$(2) \quad y(0) = 0$$

ヲ満ス解ハ只一ツデアル。”

$f(x, y) \neq 0$  デアルナラバ,  $f(x, y) > 0$  ト假定シ  
テモ一級性ヲナクシナイカラ  $f(x, y) > 0$  ト假定スル。ソコ  
デ  $G(x, y)$  トシテ

$$G(x, y) = \frac{1}{f(x, y)}$$

ヲトレコトガ出來ル、ソノ時ハ

$$D_x G(x, y) = -\frac{1}{f(x, y)^2} D_x f(x, y)$$

トナルカラ

定理 2.

$$“(L) \int_{-b}^b D_x f(x, y) dy \text{ が存在シ}$$

$$-D_x f(x, y) \leq K f(x, y)$$

デアルナラバ (1) / (2) ヲ満ス解ハ只一ツデアル。”

ヲ得ル。コレカラ

系 1.

$$“(L) \int_{-b}^b D_x f(x, y) dy \text{ が存在シ}$$

$$D_x f(x, y) \geq C \quad (C \text{ ハ 常数})$$

デアルナラバ (1) / (2) ヲ満ス解ハ只一ツデアル。”

若シ  $f(x, y)$  が  $x$  = 関シテ *Lipschitz* ノ條件

$$|f(x_1, y) - f(x_2, y)| \leq L |x_1 - x_2|$$

ヲ満タスナラバ

$$|D_x f(x, y)| \leq L$$

デ且ツ

$$(L) \int_{-b}^b D_{\pm} f(x, y) dy$$

が存在スルカラ

系 2.

“ $f(x, y)$  が Lipschitz 条件ヲ満たスナラバ (1)  
、 (2) ヲ満た解ハ只一ツデアアル。”

ヲ得ル。

$g(x, y)$  ハ  $0 \leq x < a$ ,  $|y| < b$  デ連続ナ函数ト  
スルト 定理 1 カラ 求積法デノ 変数分離ノ場合ノ 擴張ニ當  
ル。

定理 3.

“ $f(x, y)$  ハ定理 2ノ 条件ヲ満シ

$$g(x, y_1) \leq g(x, y_2) \quad y_1 > y_2$$

デアアルナラバ微分方程式

$$\frac{dy}{dx} = f(x, y) + g(x, y)$$

ノ (2) ヲ満た解ハ只一ツデアアル。”

ヲ得ル。同ジ様ニシテ

系 1.

$$\frac{g(x, y_1)}{f(x, y_1)} \leq \frac{g(x, y_2)}{f(x, y_2)} \quad y_1 > y_2$$

デアアルナラバ微分方程式

$$\frac{dy}{dx} = f(x, y) + g(x, y)$$

ノ (2) ヲ満足解ハ只一ツデアル。”

が出ル。特ニ

$$g(x, y) \equiv h$$

ニトリ、先生ノ変換ノ仕方ニヨリト (第48号) コレカラ  
系2.

“  $F(x, y)$  ハ  $0 \leq x < a$ ,  $|y| < b$  デ連続デ

$$f(x, y_1) - f(x, y_2) \leq F(x, y_1) - F(x, y_2)$$

$$y_1 > y_2$$

デアアルモノトス。

若シ (L)  $\int_{-b}^b D_x^\pm F(x, y) dy$  が存在シ

$$-D_x^\pm F(x, y) \leq K F(x, y)$$

$$F(x, y_1) \geq F(x, y_2) \quad y_1 > y_2$$

デアアルナラバ (1) ノ (2) ヲ満足解ハ只一ツデアアル。”

ヲ得ル。

$f(x, y) \neq 0$  デアルトキハ幾何デ *dual* ナ定理が對應  
スルヤウニ今通知ラレテキル單獨條件ニ對應スルモノが得ラ  
レル。ソレニハ次ノ定理が役立つ。

定理4.

“微分方程式 (1) ノ右辺  $f(x, y)$  が  $(0, 0)$  ノ近傍デ  
連続デ  $f(0, 0) \neq 0$  デアルナラバ, (2) ヲ満足ス解が只一ツデ  
アルメニ必要デ十分ナ條件ハ微分方程式

$$\frac{dx}{dy} = g(y, x)$$

が初期条件

$$x(0) = 0$$

ヲ満ス解が只一ツデアルコトナリ。

コノ

$$g(x, y) = \frac{1}{f(x, y)}$$

ヲ表ス。”

逆函数ノ存在定理ヲ用フルト容易ニ出レ、ガ福原先生ニ  
ヨル。

コノ定理カラ知ラレタ定理ト定理2, 系2トが對應スル  
コトが分ル。